

法の支配から力の支配へ

東京大学名誉教授、順天堂大学特任教授 藤原帰一

- *第1期とは様変わりの第2期トランプ政権
- *戦争の制限と領土拡大の禁止
- *デモクラシーの帝国としてのアメリカ
- *フリーライドの排除とレントシーキング
- *カナダ、メキシコ政府に対する圧力の意味
- *恫喝で得られるものは何か
- *実はブーチンを怖れているトランプ
- *石破政権の評価出来る点について
- *強いものの支配が生むパラドックス
- *懸念されるアパルトヘイトの構築



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

皆様、新年おめでとうございます。年末年始はいかがお過ごしでしたでしょうか。今年もどうぞよろしく願います。

今日は、藤原帰一先生にお越しいただきました。毎年初めの第1回講演会、最初の講演は藤原先生にお願いしております、今年も来ていただきました。毎年来ていただいていて、ずっと流れがあるわけですけれども、年々状況は複雑化し、安定というより流動化、流動化というよりも混乱みたいな情勢になっています。われわれも山中突然霧に巻かれて、道を見失い、周りに見えた景色もまったく見えなくなったりというような気分ではないかと思うんですけれども、今日は先生にそこを、われわれはいっ

たいどこに立っているのか、どういう状況の中に自分たちは今いるのかということを読み解いていただけたと思いますので、皆様もどうぞお聞きいただければと思います。

それでは先生、早速ですが、よろしく願っています。（拍手）

第1期とは様変わりの第2期トランプ政権

藤原 皆様、明けましておめでとうございます。ご紹介をいただきました藤原帰一です。毎年ここでお話をする機会を楽しみにしてまいりました。ただ、毎年、国際情勢はどんどん悪くなるんですね。

ちょうど1年前、2024年の1月12日には